

平成20年度京都市交通事業決算概要

第1 自動車運送事業

経 常 収 入	222億56百万円
経 常 支 出	216億48百万円
経 常 損 益	6億08百万円
△ 累 積 欠 損 金	△116億75百万円
△ 不 良 債 務 (△累積資金不足)	△113億83百万円

<主な業務量>

年度末在籍車両数	760両 (760両)
走行キロ数 〔1日平均〕	80.3千km (79.2千km)
旅客数 〔1日平均〕	316千人 (313千人)
職 員 数	808人 (829人)

注 () 内は、平成19年度の数値である。

1 決算のポイント

平成20年度決算は、定年退職者数のピークに伴い、退職手当が増加したものの、「京都市交通事業ルネッサンスプラン」に基づく経営健全化の取組を着実に推進し、人件費や経費の削減に努めるとともに、観光シーズンにおける臨時便の増発等の取組により、お客様数の増加が図れたため、経常損益は、平成15年度から6年連続となる黒字(黒字額6億8百万円)を確保できた。

2 主要事項

(1) 経営健全化の推進

プランに掲げた目標の達成に向け、健全化の取組を全力で推進するとともに、より一層の経営健全化を図るため、経営健全化計画案(骨子)を策定し、有識者会議を設置

(2) お客様増加策

交通局内にプロジェクトチームを立ち上げ、増客策を積極的に推進するとともに、「乗っておくれやす!」市バス・地下鉄増客計画を策定

- ・ 観光シーズンにおける臨時便の増発や通勤・通学路線における急行便の増強
- ・ 新規開業したJR桂川駅へ接続する路線の再編
- ・ 「京都修学旅行1dayチケット」の新発売
- ・ 「市バスecoサマー」をはじめとした市バス開業80周年記念事業の実施 など

(3) お客様サービスの向上

ア バス停上屋やバスロケーションシステムの整備など、バス待ち環境の改善

イ 春、秋の観光シーズンにおける市バス、地下鉄案内「おもてなしキャンペーン」の実施

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）		
		19年度決算	20年度決算	増△減
		億 百万円	億 百万円	億 百万円
経 常 損 益	営業収益	189 83	190 39	56
	運送収益	178 31	179 08	77
	その他	11 52	11 31	△21
	営業外収益	34 32	32 17	△2 15
	収入計	224 15	222 56	△1 59
	営業費用	211 65	212 45	80
	経常人件費	77 41	72 40	△5 01
	退職手当	18 78	23 76	4 98
	経費	94 55	94 58	3
	減価償却費等	20 91	21 71	80
	営業外費用	3 54	4 03	49
	支出計	215 19	216 48	1 29
	差引	8 96	6 08	△2 88
	特別損益		△13	△62
再差引（純損益）		8 83	5 46	△3 37
利益剰余金 （△累積欠損金）		△122 21	△116 75	5 46
資 本 的 収 支	収入	33 48	21 37	△12 11
	支出	50 86	42 44	△8 42
	差引	△17 38	△21 07	△3 69
△不良債務 （△累積資金不足）		△119 95	△113 83	6 12

4 企業債の状況

年 度 項 目	19年度末 未償還残高	年度内増△減			20年度末 未償還残高
		発行額	償還額	差引	
		億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円
建設企業債	114 26	18 87	21 63	△2 76	111 50

第2 高速鉄道事業

経常収入	260億01百万円
経常支出	404億17百万円
経常損益	△144億16百万円
現金収支 (償却前損益)	△38億09百万円
△累積欠損金	△3,042億92百万円
△不良債務 (△累積資金不足)	△309億81百万円

<主な業務量>

年度末在籍車両数	222両[37編成] (222両[37編成])
走行キロ数 〔1日平均〕	56.0千km (52.3千km)
旅客数 〔1日平均〕	328千人 (319千人)
職員数	585人 (629人)

注()内は、平成19年度の数値である。

1 決算のポイント

平成20年度決算は、お客様数が予算における見込みに達しなかったが、駅職員業務の一部民間委託化や高金利建設企業債の借換えなど「地下鉄事業経営健全化計画」を着実に推進したことから、経常損益は、平成19年度より14億89百万円改善し、144億16百万円の赤字となった。また、平成22年度での黒字化を目指している現金収支は、平成19年度より16億10百万円改善し、38億9百万円の赤字となった。

2 主要事項

(1) 経営健全化の推進

ア 経営健全化計画案(骨子)の策定

「地下鉄事業経営健全化計画」に掲げた目標の達成に向け、健全化の取組を全力で推進するとともに、より一層の経営健全化を図るため、経営健全化計画案(骨子)を策定し、有識者会議を設置

イ 地下鉄駅職員業務の一部民間委託化の実施

駅職員業務の一部民間委託化を、新たに3駅において実施

ウ 高金利建設企業債の借換え

利息負担の軽減を図るため、国制度を活用し高金利建設企業債を借換え

(2) お客様増加策

「乗っておくれやす！」市バス・地下鉄増客計画の策定

(3) 駅ナカビジネスの展開

ATMの設置や、全国初となる全駅への災害対応型自動販売機の設置、「駅ナカスイーツ」の販売など駅ナカビジネスの展開

(4) 東西線第三セクター区間の直営化

東西線御陵・三条京阪間の鉄道施設を保有する第三セクターを解散して同社の鉄道事業を直営化、更にこれに伴う一般会計からの追加出資

(5) 安全で快適な地下鉄の運行

ア 気象庁の緊急地震速報を運転中の列車へ自動通報するシステムの導入

イ ホーム階とコンコース階を遮断する防火戸等の設置

ウ 多目的トイレへの改修

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）		
		19年度決算	20年度決算	増 △ 減
		億 百万円	億 百万円	億 百万円
経 営 常 損 益	営業収益	225 84	231 97	6 13
	運輸収益	212 34	218 16	5 82
	その他	13 50	13 81	31
	営業外収益	28 44	28 04	△ 40
	収入計	254 28	260 01	5 73
	営業費用	292 72	292 92	20
	経常人件費	51 89	50 53	△ 1 36
	退職手当	9 84	9 76	△ 8
	経費	124 40	125 49	1 09
	減価償却費等	106 59	107 14	55
営業外費用	120 61	111 25	△ 9 36	
支出計	413 33	404 17	△ 9 16	
差 引		△ 159 05	△ 144 16	14 89
現金収支(償却前損益)		△ 54 19	△ 38 09	16 10
特別損益		30	△ 4	△ 34
再差引（純損益）		△ 158 75	△ 144 20	14 55
利益剰余金 (△累積欠損金)		△ 2,898 72	△ 3,042 92	△ 144 20
資 本 的 収 支	収入	411 34	890 79	479 45
	支出	441 13	942 92	501 79
	差 引	△ 29 79	△ 52 13	△ 22 34
△不良債務 (△累積資金不足)		△ 290 92	△ 309 81	△ 18 89

4 企業債等の状況

年 度 項 目	19年度末 未償還残高	年 度 内 増 △ 減			20年度末 未償還残高
		発行額	償還額	差 引	
		億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円
建設企業債	2,758:86	[167:53] 276:83	[167:53] 344:60	△68:23	2,691:09
出資債	0	32	0	32	32
特例債	157:60	18:93	20:38	△2:55	156:15
資本費平準化債	154:52	63:66	0	63:66	218:18
資本費負担緩和分企業債	773:57	70:19	13:10	57:09	830:66
小 計	3,844:55	429:93	378:08	51:85	3,896:40
鉄道・運輸機構借入金	0	572:18	0	572:18	572:18
長期借入金	0	453:09	0	453:09	453:09
合 計	3,844:55	1,455:20	378:08	1,077:12	4,921:67

(注) 発行額及び償還額の上段〔 〕は、建設企業債借換分で内数である。